

# テレビ敬老会だよ全員集合!!

池田町社会福祉協議会

秋といえば、池田町は「敬老会」の季節でもあります。

中学校の体育館で開催される町を挙げてのお祭りは、演芸に、お酒に、お弁当もあり。離れた集落に暮らす友との再会もあります。会場からの賑やかな声に、稲刈りの手を止める人もいるとか。

昨年、コロナでの開催中止を受け、家でも敬老会を楽しめるよう、町内のケーブルテレビで、特別番組を放映することになりました。

いつもは約700人の観客を前に披露している、園児のダンスや歌、文化サークルの舞や合唱、歌謡ショーなどを撮影し、さらに、過去の敬老会の映像や、介護予防体操、小学生が作った紙芝居も入れて番組にするという、今までにない試みでした。

そこで司会進行役を任されたのが、福祉学習（池田の宝守り隊ミライレンジャー）の活動

をしている池田小学校5年生でした。

「相手も自分も楽しくなる撮影をしよう！」と目標を決め、台本づくりから取り組み、番組名もみんなで話し合って考えました。

『テレビ敬老会だよ、全員集合!!〜笑いあり体操ありの2時間SP!』

池田町ならではの、のんびりと明るい雰囲気番組が出来あがりました。

「懐かしいの〜あの頃は若かったの!」「知っている人の顔が見れて嬉しい」など好評の声が届きました。今年のワクチン接種会場でも流れ、接種後の待ち時間に来場者の目を楽しませてくれました。

今年も敬老会は開催中止となりましたが、アイディアを出し、町民の方と手作りのお祝いをする予定です。



# ご高齢者の認知機能低下を予防しよう！

柴田 義則

私達は、ご高齢者の認知機能の低下を予防するため、令和3年3月9日、あわらし脳活クラブを、熱意をもった6名で立ち上げました。

そして、4月17日、初の脳活教室を名泉郷会館にて開催し、脳トレーニングと脳活運動の二つの柱でスタート致しました。ご出席くださった方々の和やかな笑顔を拝見しながら、ご高齢者の認知機能低下予防にメンバー全員で力を注いでいきたいと強く思いました。

また、脳活教室開催にあたりましては、あわらし市社協の方々や、各公民館の方々より、区民の皆さまの認知症予防のために、開催ポスターの掲示や、環境のよい会場の提供、映像機器等の借用に強力な協力を頂きました。

そして、何よりも、心驚かせ、嬉しく思いましたことは、ご高齢者の方々が、教室でも真剣に説明を聞き、懸命に脳活パズルやりハビリ

体操、脳活体操に挑戦して下さいましたこと、私達あわらし脳活クラブを立上げて本当に良かったなあと考えひとしおでした。

今は、脳トレーニングと脳活運動の二つの柱でのスタートですが、新たにコミュニケーションを取り入れながら、楽しいメニュー作りに、現在、闘志を続けております。

そして、私達は、地元高齢者の方々に脳活教室に来てみて良かったと思って頂ける脳活教室を目指していきたいと思っております。



# マスクの下は笑顔で顔晴りましよう がんば

小林久美子

コロナ禍で当たり前だったことが当たり前にできなくなってきました。この大変な時代だからこそ、人と人とのつながりを大切にし、笑顔で健康に過ごせるよう、毎日の健康記録カレンダーとチェック用のシールをファイルに入れて一人ひとりに渡しています。

“はやし込み行列”で有名な「谷地区」へ訪問した時、健康記録カレンダーファイルを見せてくれて「カレンダー、分かりやすいの。助かるわ」「シール張りは細かいで難しいけど、指のリハビリになるの」と笑顔で話してくれました。私は「毎日使ってくれて嬉しい！ありがとうございます!!」と感謝の気持ちでいっぱいになりました。別の地区では「毎日、日記のようにつけているで、いいの」と心温まる声も聞きました。とても幸せな気持ちになりました。みんなが集まっておしゃべりすることが難しくなっている今日この頃ですが、健康記録カレ

ンダーを通して人と人とのつながりを感じ、皆さんから元気をいただいています。

“毎回のお使いに載せている言葉”

心をひとつに ONE ふくい

心をひとつに ONE かつやま

心をひとつに ONE きただに

マスクの下は笑顔で顔晴りましよう!



# どんな時も前向きな歩み

私の職場の上司や仲間・先輩の中で、福井の地から奈良までの地を徒歩で行くという話を聞きました。暑い中を外にいただけでも苦痛で大変な夏の日、普段から歩いてるとか体力に自信があるとか関係なくチャレンジするという前向きな姿とその為に少しずつ歩く練習をしているという努力に、すごいなって感動しました。

また、その行動を心から応援したいなと思うと同時に、ケガなく無事を願う気持ちがあふれ、何とか歩みの後押しになる事を願いお守りを作る事になりました。徒歩という事で、靴をモチーフにしました。

コロナ禍を過ごす中では、制限や閉鎖的な環境が強いられる暗いニュースが多い中でも、何が出来るか、どうすべきかを考えながら前向きに努力や喜び・楽しみを見出し明るく過ごす事をされてる人は、きっとたくさん居られるんだと思います。そんな方々の努力や思いに寄り添い応援する気持ちと自分自身もそう在りたいと感じるきっかけとなりました。



ペンネーム マイメロちゃん

# コロナ禍に介護施設が抱える問題に挑戦だ！

ペンネーム  
ミッシマンダグロブ

「コロナ禍」や「緊急事態宣言」という言葉が当たり前になって1年半が経つ。特別養護老人ホームという要介護3以上の人が住む介護施設では、頼りの家族との面会は制限され、楽しみにしていた外食や買い物もできない。ましてや一時帰宅なんてもっての外だ。病院すら受診しにくい環境が当たり前になっている。そして、施設の中では見慣れないアクリル板とスクリーンが溢れている。

このコロナ禍の中で、思い知らされたことがある。それは、認知症と診断された人にとって、いや、そうでない人にとっても、家族と会えることや、会いに来てくれることはとても大切な「力」だったという事。そして、家に帰る、欲しいものが買える、遊びに行ける事が、その人の生きる意欲にとって大切な「力」になるという事を。

私が働く施設でも、入居者は、この「力」と当たり前のように分断されている。入居者の生活範囲は小さくなり、生活の「楽しみ」を奪われ、変化のな

い生活に意欲がなくなり、認知症も進行する…そんな姿を見てきた。

さて、この当たり前な状況に、介護施設として介護士としてどう「挑戦」するのか？自由だからできる楽しみもある！制限の中で生み出せる楽しみもあるはず。

それを考えればいい！今、施設でできる事を一杯やっていこう！

外食できないから屋台を呼んだ！出前を取った！誕生パーティーを開いた！スイカ割りだ！ドライブに行こう！今月は敬老会を開こう！

これからも挑戦は続く！

